



# 一関の四季彩

阜月の風景

## 栗駒山で第52回山開き 残雪踏みしめ頂へ 災害復興と栗駒の魅力発信

岩手、宮城、秋田の3県にまたがる栗駒山(1627m)は、岩手県側では「須川岳」と呼ばれる日本二百名山の一つ。「第52回山開き」は5月19日行われ、山岳愛好家や登山ツアー客などが頂上を目指した。

中腹の須川高原温泉前で行われた安全祈願祭には約100人が出席。勝部修市長は「岩手・宮城内陸地震から5年。災害復興と栗駒の魅力発信したい」とあいさつ。その後、テープカットを行って登山シーズンの幕開けを祝った。

登山者は、残雪を踏みしめながら歩を進め、約2時

間半で山頂に到着。仙台市から参加した熊澤かうり君(8歳)は「雪山は初めて。楽しかった」と元気いっぱい。父親の浩一さんは「いつも紅葉の季節に登ります。残雪の風景は新鮮ですね」とすがすがしい笑顔を見せた。

山開きには、秋田県湯沢市、同東成瀬村、宮城県栗原市と本市が広域連携によつて観光振興を図る「ゆつくり栗駒山麓連絡会議」の関係者も参加した。



### Ichinoseki City 岩手県一関市



東北のほぼ中心、盛岡市と仙台市の中間にある一関市は古くから岩手県南、宮城県北エリアの中核を担ってきました。2005年9月20日に一関市、花巻市、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村が合併。11年9月には藤沢町と合併し、「人と人、地域と地域が結び合い、未来輝く いちのせき」を目指して前進しています。

■面積 1,256.25km<sup>2</sup> ■人口 126,518人(男61,141人、女65,377人)  
 【DATA】 ■世帯数 46,133戸 ■市花 なのはな ■市木 ぶな ■市鳥 うぐいす  
 (以上2013年6月1日現在)

## CONTENTS 6月の目次

- 02 **Pick up**  
駅伝室根中女子が岩手の頂点に
- 03 **一関の四季彩**  
栗駒山で第52回山開き
- 04 **特集※学校統合**  
**第2部 統合**
- 10 **市役所からのお知らせ**  
ワラビ(野生)が出荷制限に/勝部市長のお仕事百景 ほか
- 12 **春の叙勲**  
小山奨さん/小岩三男さん/新妻由利子さん/佐藤とし子さん/高橋清男さん/千葉初男さん/小野洋さん/穴戸久さん
- 14 **まちのトピックス**  
一関・磐井川で「魚資源保護鮎放流事業」/花泉・金沢小で「命をつなぐプロジェクト講習会」/大東・猿沢公民館で「ウオーキング教室」/千厩仮設住宅で「スポーツ吹矢」体験交流/東山・松川小学校で最後の運動会/室根・折壁保育園で「なかよし広場」/川崎公民館で「第1回川の楽校」/藤沢で「V-Rally in Fujisawa2013」
- 16 **市民の広場**  
笑顔でGood(今野美沙紀) / ふれーふれークラブ(千厩中野球部) / キッズ写真館 / 公民館さございん(花泉・永井公民館)
- 18 **健康コーナー**  
健康情報 / 元気のみみつ(三浦フミ子) / 健康塾(菅野孝) ほか
- 20 **施設だより**  
博物館 / 図書館 / 催し物案内 / 掲示板 ほか
- 22 **お知らせ**  
募集 / 催し / 講座 / 相談 / お知らせ ほか
- 30 **市長へひとこと**  
皆さんから寄せられた主なひとことと回答
- 32 **わたしの夢**  
菅原謙伸さん 千厩小6年



1) チームメイト(左から)吉度一葉、佐藤生菜(以上3年)、鈴木樺連、佐藤雅、佐藤響、小山千穂里(以上2年) / 2) 部活動を終えてからの練習もしっかりウォームアップから / 3) スピードトレーニングで限界に挑戦する / 4) 監督の山形裕之先生(47)は熱血漢 / 5) コーチの鈴木康司さん(40)は樺連の父で同校OB。高校時代、「都大路」を走った実績を持つ



## 駅伝室根中女子が岩手の頂点に 盛岡市内一周継走大会中学女子の部で初優勝



4月21日に行われた「第67回盛岡市内一周継走大会」。中学校女子の部(4区間15.2km)を57分36秒でつなぎ、見事悲願の初優勝に輝いた。前回(7位)の悔しさをバネに厳しいトレーニングを重ねて挑んだレース。「絶対優勝する」という一人一人の強い気持ちと、チームの絆が実を結んだ。

「本当にすごい」と語る山形裕之監督(47)。前任校で駅伝に携わり、県内の勢力図を知るからこそこの言葉だ。鈴木康司コーチ(40)は初優勝を喜ぶ一方で、「県大会優勝は一つの通過点。最終目標は全国大会出場」とさらに前を見る。優勝の余韻に浸るのもつかの間、選手は早くも全国大会の県予選である県中学校駅伝競走大会(10月)に向け、トレーニングに励んでいる。

練習は火、水、金の週3日。それぞれの部活動が終わっ

た後に行われる。シーズンインの今は、スピードトレーニングで走力を鍛えている。鈴木コーチが「男子でもきついレベル」というハードな走り込みにも、弱音を吐かない選手たち。佐藤生菜主将(3年)は「他校も必死。簡単には優勝できない」と、厳しい練習を平常心で受け入れる。

強さの秘けつは、この意識の高さにある。「チームメイト全員がライバル」をモットーに、たとえ練習でも「負けたくない」と激しく競い合う。学校での練習以外にも自主トレをするなど、自分と闘い続ける毎日。故障者もいるため「無理をしないでほしい」と監督、コーチが心配するほどだ。

支えてくれる人たちの期待に応える走りをしたい——「感謝」の気持ちで、走る力とつなぐ心の原動力。全国に照準を合わせた選手たちに迷いはない。

【結果】①室根中57分36秒(1周3.8\*×4周)  
 1走・鈴木樺連(2年)13分43秒、2走・佐藤生菜(3年)14分28秒、3走・佐藤雅(2年)15分15秒、4走・佐藤響(2年)14分10秒